

# Jure Pukl Trio

[Profile]

Jure Pukl ユウレ・プクル : sax



1977年、スロベニア生まれ。

ウィーン音楽芸術大学とコニクリーク音楽院デン・ハーグでクラシックとジャズサックスを学ぶ。

その後、奨学金を得てボストンのパークリー音楽大学に入学する。パークリーでは、ジョー・ロバーノ、ジョージ・ガズーンに師事する。また、オーストリアのグラーツ大学で音楽と舞台芸術の修士号を取得する。

彼は当初からジャズの進化にあくなく探求のスピリッツとスキルを兼ね備えており、21世紀の音楽を精力的に駆け立てる創造的な新世代の新星として期待されている。また、スロベニアの芸術への貢献に対して最高の栄誉とされる国家賞“Nagrada Presernovega sklada 15”を受賞する。

彼はスタイルにこだわらず彼自身の音楽に対する解釈で広範囲にわたる演奏やレコーディングに参加している。

共演者はディープ・リーブマン、ブランフォード・マルサリス、エスペランサ・スポルディング、ヴィージェイ・アイアー、アダム・ロジャース、メリッサ・アルダナ、ロドニー・グリーン、マーカス・ギルモア、アーロン・ゴールドバーグ、ジェフ・ティン”ワッツ”等、その活動は枚挙にいとまがない。

メリッサ・アルダナ、ジョー・サンダース、グレッグ・ハッチンソンとの作品“DOUBTLESS”は大きな反響を呼び、欧米だけではなく世界中をツアーし多忙をきわめ現代ニューヨークのジャズ・シーンで最も期待されるライジングスターとして大きな話題となる。

Rashaan Carter ラシャーン・カーター : bass



ワシントンD.C.生まれ。

サックス奏者の父親とジャズラジオのプログラマーの母親の元に育ち自然と音楽に興味を持ち、やがてベースを演奏するようになりワシントンのローカルシーンで経験を積む。

高校を卒業後、ニューヨークに移りニュースクールに入学する。ニュースクールでは、バスター・ウィリアムスとレジー・ワークマンに師事し、在学中は、ジョー・チェンバースやジミー・オーエンスを含む多くの教員と演奏をし活動を始めた。卒業後、ニューヨークのジャズ・シーンで活躍しカーティス・フラー、ルイス・ヘイズ、

ウォレス・ルーニー、デヴィッド・マレー、ヘンリー・スレッジル、ラヴィ・コルトレーン、ジェリ・アレン、ニコール・ミッチェル、マーク・ケリー、シンディ・ブラックマン、ベニー・ゴルソン等多くのミュージシャンと

仕事をする機会に恵まれる。また、最も影響をあたえられた人物の一人ロン・カーターにも師事している。

現在、世界中ノアーティストと共演し、さまざまなレコーディングに参加している。

Kayvon Gordon ケイボン・ゴードン : drums



デトロイトで生まれ育つ。

若い頃に、トランペット奏者マーカス・ベルグレイブの指導を受ける。

その後、ミシガン大学に進学し、ロバート・ハースト、ベニー・グリーンに師事する。

在学中からヨーロッパ、アフリカ、南アジア、アラブ首長国連邦、北米で公演を行っている。

これまでの主な共演者はマーカス・ベルグレイブ、ジョー・ロヴァーノ、ジョニー・オニール、ロバート・ハースト、ロドニー・ウィテカー、サリバン・フォートナー、ラヴィ・コルトレーン、JD・アレン、ウィントン・マルサリスなどがおり若くして著名なミュージシャンとステージを共有する光栄に恵まれている。

現在、ニューヨークを拠点としての活動と同時にデトロイトの伝統的なジャズを学び同世代のミュージシャンと切磋琢磨している。